

地域おこし協力隊通信

VOL.2

松川村役場 総務課 1万人復活特命係

TEL: 0261-62-3111

E-mail: tokumei@vill.matsukawa.nagano.jp



安曇野ちひろ公園FB



地域おこし協力隊FB



地域おこし協力隊のことを、みなさまにお伝えしている地域おこし協力隊通信。第二弾となる今回も、協力隊の制度や協力隊員の紹介を行います。（作成：地域おこし協力隊 川上 洋一）



地域おこし協力隊の活動

松川村の場合、役場が募集時から分野を定め、おおよその枠内で活動します。現在の協力隊の活動分野は、移住定住支援や安曇野ちひろ公園での活動、営農支援や農業支援、公民館活動と、多岐にわたります。

なお、今年の5月以降、勤務時間中に、将来の定住等に向けた活動（農産物等の生産、販売に向けた取組み、視察等）が、月20時間を上限として認められるようになりました。



地域おこし協力隊の制度

【雇用形態は？】

松川村の場合、嘱託職員としての採用です。

【活動期間は？】

1年ごとの契約更新で、最大3年です。

【活動経費や給与等は？】

総務省が、特別交付税により財政支援を行います。隊員1人あたり400万円を上限とし、そこから活動経費や給与等に充てられます。

【定着率は？】

松川村では、まだ3年の任期を終了した隊員はいません。統計によると、任期終了後、約6割が同じ地域に定住しています。

【定住後の仕事は？】

カフェやゲストハウスなどの起業、就農、または結婚など、様々です。



裏面では、昨年着任した2人の協力隊員を紹介します！

地域おこし協力隊を紹介します！

インタビュアー：協力隊 川上

昨年4月に着任した太田さん。高校生までは松川で暮らしていました。その後10年以上、愛知県で暮らします。いつかは松川村に帰りたと思っていたところ、地域おこし協力隊の募集を見つけ、応募。協力隊員のなかでは、唯一のUターン者です。

現在は、すずの音ホールで、すずの音応援団を担当しています。コンサートや音楽祭など、様々なイベントのお手伝いをしているほか、公民館講座の団塊倶楽部やフレッシュ学級を担当し、視察や研修を企画しています。

その愛される人柄から、秋になれば大和田神社で奉納相撲のため化粧回しを締め、クリスマスが近くなればサンタクロースの依頼が殺到します。

最後に太田さんから一言。『すずの音ホールは多くの村民に利用いただいています。多くの公民館行事にかかわり、地域の皆さんと交流することができました。これからもいろいろな行事のお手伝いをしたいです。』



多面的事業



青木秀之 (26)
あおき ひでゆき
東松川区

同じく昨年4月に着任した青木さん。長野にずっと憧れていて、いつかは移住したいと考えていたとき、地域おこし協力隊という存在を友人から聞き、やるなら今だと思い立ったことがきっかけです。神奈川県から松川村に移住してきました。

担当は「多面的機能支払交付金」という交付金の事業。この交付金とは、農村のもつ多面的な機能（食糧生産だけではなく、文化の継承、水源の涵養、国土や自然環境）を保全するためのもの。昨年、松川村に19あった組織が1つにまとまり、その事務局員として現在活動をしています。主な業務は、交付金の申請や活動報告のとりまとめ、水路などの工事の計画のとりまとめ、発注などです。できて間もない組織となるので、体制整備の検討をしたりもしています。職場の電話は誰よりも早く取り、役場内に響く丁寧な電話対応。青木さんの人柄が表れています。農家さんたちからの信頼も築けてきたようです。

趣味はオートバイ。長野にあこがれていた理由も、道路や景観が素晴らしく、毎年必ずツーリングに来ていたからだったりします。

最後に青木さんから一言。『この素晴らしい松川の農地、景観を守りより良くしていく為にも、今の事業を軌道にのせ、今後も頑張っていきます！』

